

文部科学広報

文部科学省 編集



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

TOPICS

都倉 俊一 新文化庁長官就任

トップアスリートとの特別対談

スポーツ庁長官 室伏広治のアスリート近影

Monthly Line Up

日本人宇宙飛行士の躍動 ～アルテミス世代の始まり～
国内スポーツ施設の約6割！ 学校体育施設の有効活用の方法とは
令和3年度「日本博」の採択事業が決定しました

文部科学広報

CONTENTS

5

MAY 2021
No.258



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学省「情報ひろば」
NAVI Navigation

文部科学省 **FLASH**

TOPICS

29

「文部科学省 情報ひろば」新庁舎2階エントランスにおいて新たな企画展示を開始しました！
奈良先端科学技術大学院大学

19

令和3年度「日本博」の採択事業が決定しました

15

国内スポーツ施設の約6割！ 学校体育施設の有効活用の方法とは

11

日本人宇宙飛行士の躍動 ～アルテミス世代の始まり～

5

スポーツ庁長官 室伏広治のアスリート近影

スポーツ庁競技スポーツ課

上地結衣選手（車いすテニス）編

5

澤野大地選手（陸上競技）編

8

3

都倉俊一 新文化庁長官就任

トップアスリートとの特別対談

都倉 俊一 新文化庁長官就任

令和3年4月1日に都倉俊一が第23代文化庁長官に就任しました。



文化庁長官
とくらのしゅんいち
都倉 俊一

生年月日	昭和23年6月21日
出身地	東京都
学歴	昭和46年3月 学習院大学法学部 卒業
経歴	昭和52年10月 社団法人日本音楽著作権協会評議員 (平成22.3まで)
	平成7年6月 社団法人日本作編曲家協会理事 (平成23.5まで)
	平成13年10月 社団法人日本音楽著作権協会理事 (平成22.8まで)
	平成21年5月 社団法人日本作曲家協会常務理事 (平成23.5まで)
	平成22年8月 一般社団法人日本音楽著作権協会会長 (平成28.3まで)
	平成23年2月 文化審議会委員(平成29.3まで)
	平成26年4月 昭和音楽大学客員教授(令和3.3まで)
	平成27年3月 公益財団法人日本美術協会 「高松宮殿下記念世界文化賞」選考委員(令和3.3まで)
	平成27年10月 国際音楽創作者評議会執行委員(令和3.3まで)
	平成28年4月 一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問(令和3.3まで)
	平成28年11月 アジア・太平洋音楽創作者連盟執行委員会会長(令和3.3まで)
	平成30年11月 文化功労者
	令和3年4月 文化庁長官

作曲による主な受賞

[山本リンダ]	昭和47年『どうにもとまらない』	第14回日本レコード大賞作曲賞受賞
[山口百恵]	昭和49年『ひと夏の経験』	第16回日本レコード大賞大衆賞受賞 第5回日本歌謡大賞放送音楽賞受賞 第7回日本有線大賞大衆賞受賞
[狩人]	昭和52年『あずさ2号』	第19回日本レコード大賞新人賞受賞
[ピンクレディー]	昭和51年『ベッパ〜警部』 昭和52年『ウォンテッド(指名手配)』 昭和52年『UFO』 昭和53年『サウスボー』	第18回日本レコード大賞新人賞受賞 第19回日本レコード大賞大衆賞受賞 第20回日本レコード大賞大賞受賞 第9回日本歌謡大賞受賞

都倉長官就任の様子



報道各社からの取材に対応する都倉長官



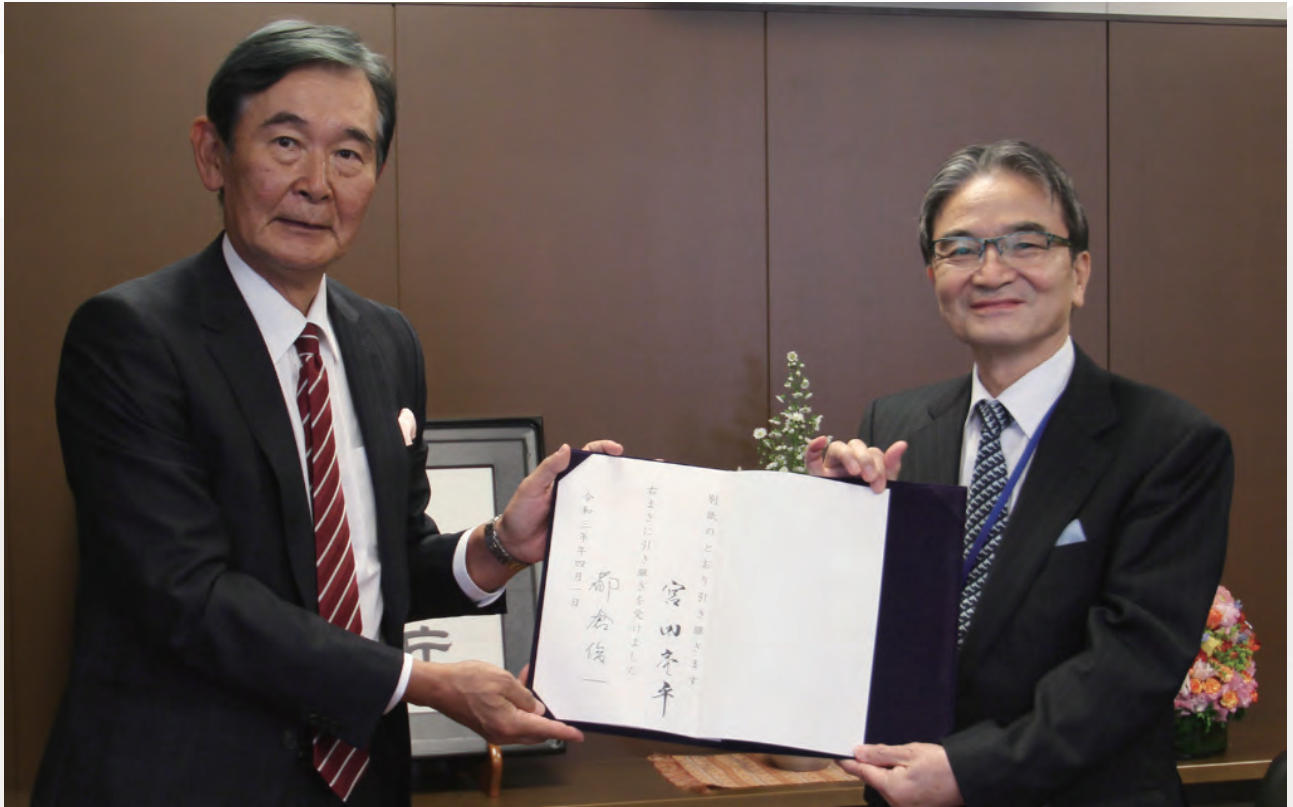
初登庁の都倉長官



就任に際し、職員に訓示する都倉長官



コロンビア共和国大使サンティアゴ・バルド閣下と面談する都倉長官



宮田前長官から都倉長官への引継ぎの様子



トップアスリートとの特別対談

スポーツ庁長官 室伏広治のアスリート近影

上地結衣選手 (車いすテニス) 編

澤野大地選手 (陸上競技) 編

スポーツ庁競技スポーツ課

室伏スポーツ庁長官が、トップアスリートの生の声に迫ります。

新型コロナウイルス感染症により、2020年、世界は一変しました。東京オリンピック・パラリンピックも1年延期となり、大きく変わってしまった日々の中で、トップアスリートはどのような想いで戦い、何を感じているのでしょうか。

日本を代表するアスリートの「今」に迫り、彼らの言葉や姿勢を通じてそれぞれの競技やアスリート自身の魅力、さらには社会におけるスポーツの力を発信していくため、トップアスリートと室伏スポーツ庁長官との対談を実施しました。

3月号に掲載した第1弾 (羽根田卓也選手 (カーヌー)、木村敬一選手 (パラ水泳)) に引き続き、今回は、車いすテニスの上地結衣選手と陸上競技の澤野大地選手との対談内容を抜粋の上で一部編集して紹介します。

(ファシリテーター 櫻木 瑠子 大臣報道官)

上地 結衣選手との対談

上地 結衣選手

ロンドン(2012)、リオデジャネイロ(2016)の2大会連続で五輪に出席。前回のリオ大会において、車いすテニスでは日本人としてこの種目初のメダルとなる銅メダルを獲得。2020年の全豪・全仏をはじめ、グランドスラムでの優勝も多数。

※この対談は、2021年3月に実施したものです。

——競技を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

上地選手 私は、生まれつき二分脊椎症という障害なのですが、小さい頃から本当に身体を動かすことが好きだったので、得意な科目は、と言われると、できないことはすごく多かったのですが、体育が一番好きでした。しかし、やはり成長とともに障害が進んでいって、車いすを使用しなければならぬということになったときに、少し気持ちが内向きになったというか、室内にこもるようなことが多くなってしまいました。

それを見ていた両親が、何か車いすでもできるスポーツを、と思ってくれたことがきっかけで、最初は車いすバスケットを始めました。大人の方たちの中に混ぜてもらっていたので、難しい部分もたくさんあったんですけども、バスケットもすごく楽しくやっています。そんなときに、4歳離れた姉が中学校の部活動で軟式テニス部に入部したことがきっかけで、「わたしもお姉ちゃんと一緒にテニスがやりたい」ということで、車いすテニスを始めました。



写真提供 上地選手

テニスってというのは、ネットを挟んでするスポーツなので、自分が頑張ってボールを相手コートにさえ返すことができたなら大人の方とでも戦い合えるっていう、良くも悪くも自分次第というところにすごく魅力を感じて、「もつと強くなりたい」、「もつとこの人に勝ちたい」という目標が次々に出ていって、いつの間にか仕事にまでなっています。

室伏長官 車いすバスケットをされていたんですね。

上地選手 今もバスケットはしたくなります。しっかりと長いラリーをものにするっていうのがわたしのブレイクスタイルなのですが、そのときに重要になるテニスの車いす操作っていうのは、わたしは恐らくバスケットで学んだと思います。

室伏長官 テニス一本で来たのではなくて、他のスポーツから経験を生かされているというのは素晴らしいと思います。

——初めてメダルを獲得したりリオ大会は、2度目のパラリンピック出場でしたが、どんな大会だったのでしょうか。

上地選手 初めて出場した2012年のロンドン大会のときに女子の金メダルマッチを観て「ああ、メダルを獲得することってすごいことなんだな」と思ったのと、そのあとに国枝選手（国枝慎吾・2004年アテネ大会男子ダブルス、2008年北京大会・2012年ロンドン大会男子シングルス）の金メダリスト）が、実際に金メダルを獲得された姿を観て、素直に「良いな」って思ったんですね。18歳という高校卒業のタイミングだったこともあって、ロンドン大会が終わって何か他のことをやりたいなっていう気持ちもあったのですが、ロンドン大会のそうした経験で、やはりリオ大会を目指してテニス一本

でやりたいと決断しました。そのような中で、リオ大会は、金メダルを目指して4年間戦ってきましたし、コーチと二人三脚、それから、周りで支えてくださっている方たちと一緒に取り組んできた結果、残念ながら、銅メダルだったので、ロンドンがすごく楽しい大会だったっていうふうに表すなら、リオは悔しさばかりの大会でしたね。ただ、自分が日本にメダルを持ち帰ったときに、触ってもらって見ってもらって、皆さんがすごく喜んでくださって「ああ、よかったね」って言ってくださって、初めて「みんなにメダルを見せられてよかったな」と思いました。自分の試合は、すごく不甲斐なくて、悔いが残る試合ばかりだったのですが、皆さんの喜んでる顔を見て、獲ってよかったなっていうふうにはっとしました。

室伏長官 車いすテニスでは、国枝選手が長く競技で活躍されていて、女子も日本の選手がこうやって活躍していますが、何かその要因や日本の強みというのはあるんですか。

上地選手 国枝選手や齋田選手（齋田悟司・1996年アトランタ大会から2016年リオ大会まで6大会連続パラリンピック出場。2004年アテネ大会では、国枝選手と組んだ男子ダブルスで金メダル獲得）のような方たちが、どんな海外に行ってくださいましたからわたしたちが続けたと思うので、やっぱり憧れの選手の存在っていうのは大きいと思います。背中を追いかけさせてもらっているっていうのは、すごく光栄だと思いますし、今グランドスラムで国枝選手と一緒に舞台上で戦えるっていうのは、すごく自分にとっても誇りです。

室伏長官 きっと、上地選手に続く選手もいるで

しようね。

上地選手 わたしは国枝選手と10歳離れていて、これから始めてくれる子たちも、みんなの憧れは、一番はやっぱり国枝選手がいいと思っています。わたしは、国枝選手の域に達するまでにはすごく長い距離があると感じると思うので、私は、その間にいる身近な存在に感じてもらえたらなと思います。

——いよいよ東京大会だ、というときに、今回の新型コロナウイルスの拡大で、心境的にはいかがでしたか？

上地選手 中止というのは一番残念だなと思っていたので、延期でも開催してもらえるとただけでもよかったなと思いました。また、1年延期になったので「じゃあこの間に、また新しいことができるんじゃないか」と思い、そういう意味ではすごくポジティブに活動できていたのではないかと思えます。

室伏長官 今回、コロナによって世の中の状況が変わってしまったって、何かこういふときだからこそ、気づいたことなどはありますか。

上地選手 元々、たくさんの方の支えがあって、自分がテニスコートに立ってプレーできていると分かっているつもりではいたんですけども、今回、改めて、会場だったり、警備の方や清掃の方だったりを見かける機会が増えたので、わたしたちが気づかないところで、自分たちが想像していたよりもたくさんの方のおかげで成り立っているんだなっていうのを感じました。もちろん感謝の気持ちはあるんですけども、やっぱり、だからこそ成功させないといけないと思いますし、だからこそ、自分が活躍している姿や、「やってよかったな。自分

ちが頑張ってたな」っていう風に思ってもらえるようなプレーを、わたしたちがしたいといけいな、とすごく感じました。

室伏長官 スポーツ庁で調査をしたところ、障害者の方のスポーツの実施率がなかなか上がってこないんですね。場合によっては1年に1回もやらないとか。(スポーツを始めるには)何かきっかけが必要なんなんですけど、きっかけづくりとしてどういった取組をすると良いと思いますか。

上地選手 スポーツというと、恐らく、テレビで見たことのある方たちは、やっぱりプロフェッショナルな方たちで、それを思い浮かべるのだと思います。でも、例えば、歩くことも運動じゃないですか。何でもスポーツだっけ思うんですけど、「自分にはできないな」とか、ウォーキングとかランニングは「スポーツに入らないな」と思ってやめてしまいうような人たちがいるんじゃないのかなって。「これでもスポーツ」、「これでも運動」っていう風に思えたら、もつともつと「じゃあこれもできる」という幅が広がってくると思いますし、やってみたっていうことも増えてくるんじゃないのかなと思います。

室伏長官 どんなことから始めたらいですか。

上地選手 小さい頃に、卓球をさせてもらったことがあるんですね。そのとき指導してくださった方は、「卓球はやっぱり当たらないと面白くない、返らないと面白くない」と思ってたんですけど、わたしにラケットを握らせて「ここで構えてね」って言って、構えていると常にラケットの面に当ててくたださるんですね。今思い返すと、そういうふうな、何とか楽しませる、何とかできるようにって

うことを考えてくれる人たちがいたから、わたしもいろんな競技を体験することができたのだと思います。

室伏長官 ラケットを構えていて、「あれ、いつの間にか、わたし打ってるんじゃないかな」って思う瞬間があるわけですよ。そうすると、ちよつと振ったらちよつと強い球が打てたとかにつながっていくから、本当にそういう入口のところが大事なんだなと思います。

——この動画を御覧になっている国民の皆様へメッセージ

上地選手 東京大会では、シングルスで金メダルを取ることが、今一番目標とされていることですが、約1年間、皆さん大変な思いをされて、いろいろな立場の方が、難しい中で生活をしてこられたと思うので、皆さんの努力なしには、わたしたちは海外にも行けなかったと思いますし、この1年間活躍することもできなかったと思います。なので、感謝の気持ちというか、「東京パラリンピックやってよかった」と言ってもらうためには、わたしたちがメダルを獲得する瞬間を観てもらおうとか、日本人が活躍するっていうところで、皆さんに、「やったね、よかったね」、「開催されてよかったね」と思っていただけのように頑張らないといけないなと思います。





澤野 大地選手との対談



澤野 大地選手

アテネ（2004）、北京（2008）、リオデジャネイロ（2016）の3度のオリンピックに出場。前回のリオ大会では、日本人としてこの種目6年ぶりとなる7位入賞を果たす。現在は、東京大会を目指しながら、日本オリンピック委員会（JOC）のアスリート委員長も務める。

※この対談は、2021年2月に実施したものです。

——室伏長官と澤野選手は旧知の仲でいらっしゃるのですよね。

室伏長官 同じ陸上競技で、しかも同じ千葉県成田高校出身で、澤野選手は私の後輩にもなるのですが、競技会でもいつも一緒にいましたし、本当によく知っているアスリートです。

澤野選手 室伏さんがテグの世界選手権のときにメダルを獲られた際に、わたし自身、決勝の舞台で戦っていて、メダルのウイニングランをされているときにわたしのところに来ていただいて「頑張れよ」と握手をさせていただいたのは、非常に強く覚えています。

やはり、陸上競技のしかも投てき種目で金メダルを取るっていうのは、いま現時点でも全く信じられないぐらいの偉業を達成されたと思います。

色んな場面で室伏さんが取り組まれていたトレーニングや考え方も全部拝見しているんですけども、どうやってあそこまで行き着いたのかなってというのは、やっぱり非常に興味がありますし、どれだけの努力をされたのか、想像もできないくらいのことなんだろうなという気がしています。

——澤野選手は、JOCのアスリート委員長として今回のコロナ禍で様々な発信をされています。昨年4月に呼びかけられた『#いまスポーツにできること』プロジェクトについて教えてください。

澤野選手 JOCのアスリート委員会として、緊急事態宣言でみんなが思うような活動ができない中、また世の中が暗くなっている中、多くのアスリートが、日常のトレーニングに戻りたいとか、社会の一員として何かしたいという思いで出てきた案が、「#いまスポーツにできること」プロジェクトでした。アスリートが、世の中の人たちに何か元気づけることはできないか、また、日頃から応援していただいているファンの皆さんに感謝を伝えられないか、大変な最前線で戦ってこれている医療関係者の皆さんに感謝を伝えられないか、そういった応援のメッセージをアスリートが発信できないかということ、SNSを通じて、『#いまスポーツにできること』とハッシュタグをつけて活動を呼びかけました。本当に多くのアスリートに賛同いただいて、大きな反響をいただきましたし、本当にたくさんの方々にポジティブなメッセージをいただけたなと思っています。

室伏長官 わたしも、組織委員会にいたときに、澤野選手も参加されていたJOCのアスリートミ

ーティングに、組織委員会のメンバーとして参加しましたが、そのときにも色々なことを感じました。今のアスリートは、1年もオリンピック・パラリンピックが延期してしまい、しかも競技をするトレーニング場が開いていないなど切実な問題を抱えている中で、本当によく、自分たちから明る

「#いまスポーツにできること」プロジェクト

JOCアスリート委員会から
全競技のアスリートに対し、
SNSを通じて社会に対する
メッセージ発信を呼び掛け



Twitterより

い話題を提供しようとしていたなと思います。
——室伏長官から紹介のあった昨年7月のJOCのアスリートミーティングでは、トレーニングの状況やモチベーションの共有などを図られたというのですが、どのような狙いで開催されたのでしょうか。

澤野選手 世の中、日々コロナの状況が変わって行く中で、アスリートにとっても不安な毎日を過ごしていることが非常に多かったので、わたし自身も東京オリンピックを目指す現役のアスリートの一人として、やっぱり不安な気持ちを少なからず持っていました。そういった気持ちをアスリート同士で共有する、また、何か新しい施策などないかとか、アスリートの率直な生の意見を集約したいというところで、アスリートミーティングをやったらかとという話がJOCのアスリート委員会でも立ち上がり、それが実現したということです。まず、「あつ、困っていたのは、不安だったのは自分だけじゃないんだ」ということを共有できたこと、それが一番大きかったのかなと思います。アスリートはそれぞれ一人で頑張っていたりしますが、それぞれコロナ禍において集まることができなかったりとか、合宿ができなかったりしたんですけども、実際にそうやって悩んで、いろいろ工夫しながらやっていたのは自分だけじゃなかった、というところで、どんなにトップのアスリートでも、不安な気持ちを抱えながらトレーニングをしていたというところを共感できたというのよかったですかなと思います。またさらに第2回、第3回と続けていく中で、実際に、じゃあどうしていけばいいかということ

を、アスリートの率直な意見として集約できたことがよかったですし、実際にそこから出た意見というものを、アスリート委員会として、施策としてしっかりと、プロジェクトを実施して形にしたものもありましたので、そういったことは非常によかったのかなと思います。

——棒高跳びの魅力というのはどういった点でしょうか。

澤野選手 やっぱり技術性が非常に高い種目なので、技術を高めることによって、わたしみたいな年齢がいった選手でも十分に戦えること、また、単純に、魅力っていうと、棒一本で人間が身長3倍もの高さを跳ぶことができる、これはひとつの芸術だとわたしは思っています。ハンマー投げもそうですけれども、室伏さんが投げられる姿っていうのは本当にロスがなくすごく綺麗な投てきをされるので、こういった技術種目に関しては、その芸術性っていうものがその種目の魅力なのではないかなと、わたし自身は思っています。

室伏長官 飛んでいるような感じなんじゃないかな。

澤野選手 本当に、空を飛ぶっていうのがまさに当てはまるような種目ですね。バーを越えたときは、本当に空中を飛んでいるような気持ちになりますし、そこが気持ちいいから、今でもそこを突き詰めて続けているという気持ちはあります。

室伏長官 長く競技をされてきて、やはりスポーツが人生そのものだと思いますが、澤野選手にとって、スポーツって何ですか。

澤野選手 僕は、スポーツは、衣・食・住と同じところにある、生きていくためになければなら

いものかなと思っています。文化のひとつみたいな形ですね。スポーツがあるからこそ自分自身を体現できたり、自分自身が今棒高跳びをやっているのは、棒高跳びが人生の中で一番好きなことだからこそなんですけれども、そのスポーツによって、自分自身が何か満足感を得られたりとか、人に何かを伝えることができたりとか、また、あらゆるトップアスリートが活躍することによって、世の中の人たちに例えば元気を届けることができたりとか、そういったことだとわたしは思っています。

室伏長官 今後、国際舞台というところでは引退された後なども含めて、御自身のスポーツへの付き合い方については、どう思っていますか。

澤野選手 スポーツは素晴らしい、スポーツに価値があると思われているからこそ、こうやってスポーツを広めようという活動もいっぱいやっているのですが、もっと世の中に、特に日本の国民の皆さんにそういったことを浸透できるように活動ができればいいのかなと思っています。わたし自身が、やっぱりスポーツがあったからこそ今の自分があるとも思っていますし、スポーツからいرونなことを学ばせていただいて、今の自分があると思うので、そういったスポーツの価値、力というものを世の中にどんどん広めていきたい。また、スポーツは、子どもたちの夢として非常に重要なものであったりするので、そういった子どもたちの夢にもなり得るスポーツというものを、ちゃんと確立させていきたいと思っています。

——この動画を御覧になっている国民の皆様へメッセージ

澤野選手 現在、まだまだ新型コロナウイルスの影響が非常に強く、特に医療現場の方々、また、飲食店などをされている方々が非常に大変な思いをされている中だと思っています。その中で、アスリートは感染対策をしつかりしながら、東京大会が開かれることを信じてトレーニングを行っています。やはり、国民の皆さんに応援されてこそそのパフォーマンスだと選手たちはみんな思っていますので、国民の皆さんに理解をいただいて、応援される形で開催をしていただきたいという思いが非

常に強いです。そういった中で、開催されればそこでベストパフォーマンスができるように、選手たちはできる限りの調整をして、そこにピークを持っていき、パフォーマンスができるようにしていくと思いますので、わたし自身も含めて、国民の皆さんに応援される形で今までの目標を達成できるように頑張っていきたいと思っています。

全体の対談の様子はスポーツ庁HPから御覧ください。



アフロスポーツ/JOC

日本人宇宙飛行士の躍動 〜アルテミス世代の始まり〜

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

米国提案の国際宇宙探査計画「アルテミス計画」を契機に、宇宙開発時代が大きく動き出しています。日本に期待されている役割は大きく、今後日本人宇宙飛行士が宇宙で活躍する機会が増えていきます。今回は、日本人宇宙飛行士の「イマ」を御紹介します。

今から約50年前、アポロ11号が月面着陸に成功し、世界に夢と希望を与えました。現在、多くの国が月や火星の探査ミッションに乗り出す中、米国は、2030年代に火星へ人類を送ることを視野に、各国と協力し、月の周りを回る有人宇宙ステーション「ゲートウェイ」を建設するとともに、月で人類が持続的に活動することを可能とする技術の獲得を目指しています。

米国が構想したこの計画は、ギリシャ神話のアポローンの双子の女神の名前から、「アルテミス計画」と名付けられました。米国は、2024年に米国人2名の月面着陸を予定しており、成功すれば人類で初めて女性と白人以外の宇宙飛行士が月面へ降り立つこととなります。

約50年ぶりとなる、人類の月面着陸を目撃する子供たちは、「アルテミス世代」と呼ばれ、アポロ11号の活躍に刺激を受けた子供たちが、その後

宇宙分野で活躍したように、将来、月や火星をはじめとした深宇宙探査等で活躍することが期待されます。

我が国では、令和元年10月にアルテミス計画への参画を政府決定しました。参画に当たっては、今後の更なる深宇宙探査も視野にゲートウェイへの生命維持装置等の機器提供、物資補給、月面の着陸地点の選定等に資する各種データの取得・共有、月探査を支える移動手段となる有人圧ローバの開発といった我が国にとっても有益な技術の獲得・蓄積を目指しつつ、協力していくこととしています。

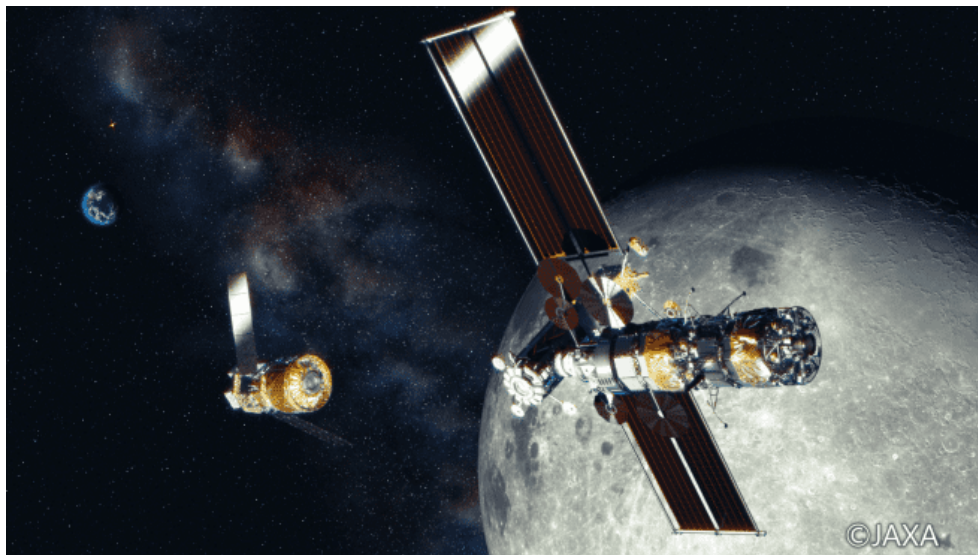
同時に、アルテミス計画への参画機会を活用し、日本人宇宙飛行士の活躍の機会を確保する等、宇宙先進国としてのプレゼンスを十分に発揮しつつ、我が国にとって意義ある取組を戦略的・効率的に進めることとしています。



アルテミス計画パッチ (提供: JAXA / NASA)

日本人宇宙飛行士の活躍へ向けた 共同宣言・了解覚書に署名

令和2年7月には、萩生田文部科学大臣とブライデンスタインNASA前長官が「月探査協力に関する文部科学省と米国防空宇宙局の共同宣言（JEDI）」に署名しました。JEDIでは、ア



アルテミス計画イメージ（提供：JAXA）

ルテミス計画に対する我が国の協力内容を具体化するとともに、日本人宇宙飛行士をゲートウェイや月に送り出すことについて、詳細を今後更に協議することについて合意しました。JEDIにより、日本人が史上初めて月に降り立つ日へ向けて大きな一歩を踏み出しました。

JEDIに基づき、令和2年12月には、日米政府間で「民生用月周回有人拠点のための協力に関する日本政府とアメリカ合衆国防空宇宙局との間の了解覚書」が閣議決定され、同月31日に署名された後、発効しました。本覚書は、JEDIで合意した内容のうち、ゲートウェイにおける協力を可能とする法的枠組みであり、ゲートウェイへの機器提供や、NASAが日本人宇宙飛行士のゲートウェイへの搭乗機会を複数回提供することが約束され、将来の日本人宇宙飛行士の活動へ向け更に前進しました。



共同宣言への署名の様子
（右）萩生田大臣（左）ブライデンスタイン前NASA長官

野口宇宙飛行士が宇宙から帰還

これまでの国際宇宙探査において、日本人宇宙飛行士はその存在感を発揮してきました。平成4年に毛利衛宇宙飛行士が日本人で初めてスペースシャトルに搭乗してから、これまで11名の日本人宇宙飛行士が宇宙へ飛び立ち、日本のプレゼンスを確立させてきました。

令和2年11月には、野口聡一宇宙飛行士が、米国人以外で初めて米国の民間宇宙船「クルードラゴン」に搭乗し、令和3年5月までの約半年間、国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在ミッションを実施しました。長期滞在中、日本人として最多回数となる4回目の船外活動を実施し、日本人で最長となる合計27時間1分の船外活動を実施



野口宇宙飛行士の船外活動の様子（提供：JAXA / NASA）



野口宇宙飛行士と星出宇宙飛行士のISS同時滞在の様子
(提供：JAXA / NASA)

星出宇宙飛行士の船長就任

しました。また、iPS細胞を用いた立体臓器の創出に関する実験など様々な科学実験を行うとともに、その様子や成果をSNS等を通じて積極的に発信し、世界にファンを作りました。

このような活躍が、我が国の宇宙開発利用の拡大や、今後の国際宇宙探査の進展につながるものと期待されています。

野口宇宙飛行士に続き、星出彰彦宇宙飛行士が令和3年4月に、ISS長期滞在ミッションを開始しました。数日間、野口宇宙飛行士と共にISSに滞在し、11年ぶりに日本人2名が同時にISSに滞在しました。



ISSでの船長引き継ぎ式の様子 (提供：JAXA / NASA)

星出宇宙飛行士は、前任のISSコマンダー(船長)から船長の証である鍵を引き継ぎ、若田宇宙飛行士以来、日本人2人目となる船長を務めています。船長として、搭乗員の安全を確保し、ミッション全体の成功に向けて、ISS搭乗員を総括し、指揮を執るという重要な役割を担うこととなります。これは、星出宇宙飛行士の宇宙における活動実績に加えて、地上での日々の業務や訓練等で発揮される優れたリーダーシップが高く評価されたものと考えられます。

その他、将来の有人探査へ向けた生活水の再生システムの実証実験や、無重力環境の特性を活かしたバイオ実験などのミッションに取り組み予定であり、我が国の宇宙開発の未来につながるような活躍をされ、無事帰還することが期待されています。

若田宇宙飛行士と古川宇宙飛行士も宇宙へ

さらに、令和4年頃には若田光一宇宙飛行士、令和5年頃には古川聡宇宙飛行士がそれぞれISSへ長期滞在し、「きぼう」を含むISSの各施設の維持・保全、科学実験等を実施する予定です。

若田宇宙飛行士は4回の宇宙飛行経験があり、2014年には日本人初となるISSの船長を務めました。古川宇宙飛行士は2011年に宇宙飛行を行い、165日間のISS長期滞在において、医師としての経験を活かし、「きぼう」での生命科学実験等を担当しました。

2人は、令和2年11月に文部科学省を訪れ、萩生田大臣、高橋副大臣、三谷大臣政務官へ宇宙で



萩生田大臣への表敬訪問の様子

の活動に向けた意気込みを伝えていきます。若田宇宙飛行士は、「これまでの経験を生かして、野口宇宙飛行士・星出宇宙飛行士を地上で支えながら、訓練・準備を行い「きぼう」利用の成果創出に寄与できるように努力したい。」と語りました。古川宇宙飛行士は、「ミッションでは、時には宇宙医学研究の被験者として、時には様々な科学研究のオペレーターとして貢献していきたい。」と話しました。

新たな日本人宇宙飛行士の募集

このように、日本人宇宙飛行士の活躍は目覚ましく、また、国際宇宙探査や月探査に向けた機運が高まっている中、令和2年10月に、萩生田文部科学大臣は、新しい宇宙飛行士の募集を令和3年秋頃に開始することを発表しました。

今後、一定数の宇宙飛行士を維持するため、5年に1度程度の頻度で募集を行うことも併せて発表しました。これにより、将来宇宙飛行士になることを希望する方々が、一定の予見性を持つていただけるようになります。

これから大きく展開する宇宙開発の目撃者となるアルテミス世代からの応募が期待されています。

国内スポーツ施設の約6割！ 学校体育施設の有効活用の方法とは

スポーツ庁

スポーツ庁ではWeb広報マガジンを展開し、月1〜2本、政策解説記事などを掲載しています。今回は、「学校体育施設の有効活用に関する手引き」の内容と、学校体育施設の活用事例を紹介します。

皆さんは、一般開放されている学校の体育施設があることを知っていますか？ その学校に通う子供たちだけでなく、地域に住む人々のために、学校の校庭や体育館を利用できるようにしているのです。身近なスポーツ活動の拠点として、今後より多くの人に学校施設を利用してもらえるように、昨年公表した「学校体育施設の有効活用に関する手引き」の内容と、実際の多様な活用事例を紹介します。

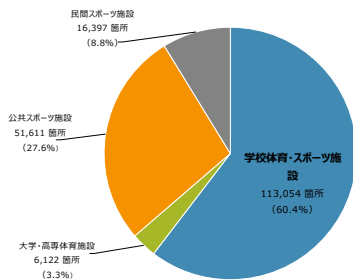
学校体育施設の開放状況と課題

自治体の体育・スポーツ施設は、場所や時間帯によってはなかなか予約ができない、統廃合によって数そのものが減っている、老朽化や財政状況の悪化などにより今後安全な施設の提供が困難に

我が国の体育・スポーツ施設における「学校体育施設」の状況

- 自治体の体育・スポーツ施設は、老朽化や財政状況の悪化等の中で、今後、安全な施設の提供が困難になることも想定されます。
- 今後、持続可能な地域スポーツ環境を確保するためには、わが国のスポーツ施設の約6割（主要な種別は約8割）を占める学校体育施設の活用を、一層進めることが重要となっています。

我が国の体育・スポーツ施設数（平成30年10月1日現在）



※学校体育・スポーツ施設とは、公（国公立を指す）私立（株式会社を指す）の小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校、専修学校、各種学校の体育・スポーツ施設を指す。
 【出典】スポーツ庁「体育・スポーツ施設状況調査」

図 1-1 我が国の体育・スポーツ施設における「学校体育施設」の状況

なることが想定されるなど、様々な課題を抱えています。そんな中、誰もが日常的にスポーツに参加することのできる機会を確保するために、学校体育施設をうまく活用してもらおうと、昨年3月に「学校体育施設の有効活用に関する手引き」が作成されました。図1-1及び図1-2にある通り、学校体育施設は、日本全国の体育・スポーツ施設の約6割を占めており、プールや体育館、運動場と施設の種類ごとに見ても、学校のものが約4分の3にまで上ります。これを有効活用しない手はありません。

学校体育施設の開放率は年々上がっており、特に公立小中学校の体育館については、いまだではほぼ100%に達しつつあります。ただし、施設別に見ると、プールの開放状況ははまだ2割にとどまっていることがわかります（図2）。

学校体育施設の開放状況

- 我が国の学校体育施設の開放率は既に高い水準にあります。
- 施設種別に見ると、屋外運動場の約8割、体育館の約9割が地域に開放されており、いずれも高い水準にあります。他方、水泳プールの開放率は約2割にとどまっています。

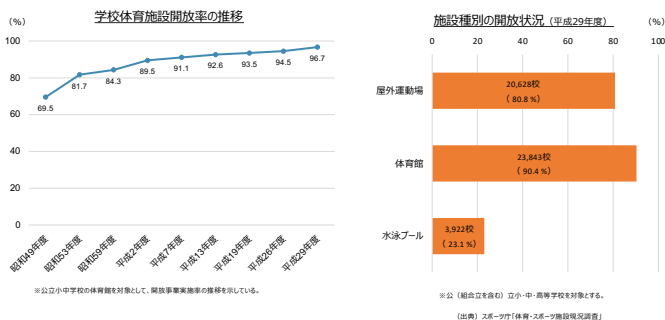


図2 学校体育施設の開放状況

我が国の体育・スポーツ施設における「学校体育施設」の状況

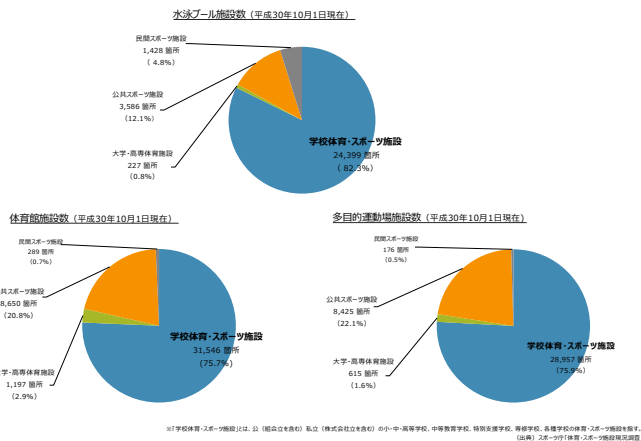


図1-2 我が国の体育・スポーツ施設における「学校体育施設」の状況

学校体育施設の開放頻度

- 開放している学校体育施設のうち、屋外運動場と体育館は、年間を通じ定期的に曜日を決めて開放している施設の割合が約8割と高くなっています。
- 水泳プールは、約半数の施設が長期休暇中の限られた日数（年間14日以下）での開放となっています。

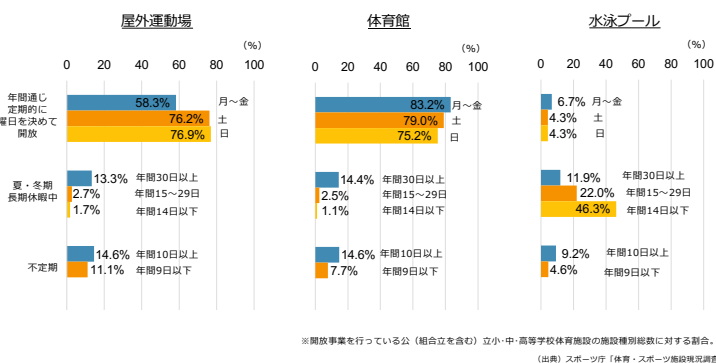


図3 学校体育施設の開放頻度

開放頻度に関しても、体育館や土日の屋外運動場（校庭）は、全体的に8割ほどが年間を通じて開放されているのに対し、プールについては夏場の短期間しか開放されていないため、ここもまだ課題であるといえます（図3）。

一方、既に開放している施設が抱えている課題は、開放対象者です。対象となっているのは、事前に登録された団体限定であるところも多く、個人でも利用可能な体育館は3割以下となっています（図4）。

学校体育施設の開放に関する課題

- 開放の対象は事前に登録された団体限定である施設も多く、個人でも利用可能な体育館は3割以下となっています。
- 学校体育施設の設置者である市区町村においては、学校開放の管理や費用に関することが課題として挙げられています。

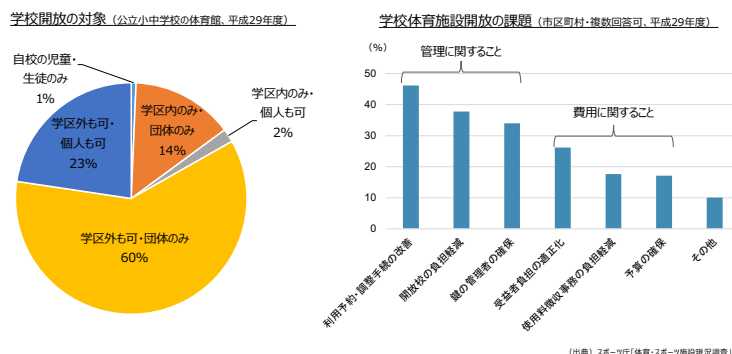


図4 学校体育施設の開放に関する課題

地域の人々に気軽に使ってもらうためには、個人での利用を増やす必要があります。また、施設予約・調整の手続や鍵の管理、休日における施設管理などにおいて、どうしても学校の先生に負担がかかってしまっています。さらに、費用面についても、施設利用料が破格の安さであることが多いため、運営する学校側も十分な予算を確保できない現状があります。

手引きに明記された5つのポイント

こうした多くの課題を踏まえ、主に開放に取り組み自治体の担当者向けに、今回の手引きでは、以下の五つのポイントを明記しました。

1. 学校体育施設をより広く利用してもらうための目的の明確化
2. 安全・安心の確保
3. 持続可能な仕組みづくり
4. 利用しやすい環境づくり
5. 新改築・改修時の留意点

1は、学校体育施設開放の目的です。学校だけでなく地域の幅広い関係者で目標を共有するため、まず目的を明確にした上で取り組んでいくことが大切です。学校体育施設は住民にとって最も身近なスポーツ施設であり、積極的に開放することで誰もが気軽にスポーツを楽しめる社会を作ることが期待されています。また、日頃から地域住民に広く利用してもらうことで、「地域の学校施設」としての意識が醸成され、児童生徒への好影響、地域社会との連携推進などにもつながります。開放によって何を目指しているかを関係者で共有して、具体的な取り組みを実行していくことが重要です。

2～4は、施設運営のソフト面にかかる課題解決に向けたポイントです。「2. 安心・安全の確保」については、一般利用者と子供たちとの動線の分離などにより、児童・生徒の安全を確保すると

もに、リスク分担など、体制を整備することを提案しています。

本手引きの肝ともいえる「3. 持続可能な仕組みづくり」では、業務・事業としての明確化や、学校教育に支障ない範囲の指定管理などの工夫を明記しています。学校側の負担をできるだけ減らしていくため、例えば、学校や行政からの外部化、民間事業者が参画しやすい環境づくり、適切な料金体系の仕組みづくりなどです。

「4. 利用しやすい環境づくり」については、利用日時や利用可能な対象者、実施可能な競技種目を広げるなど、多様なスポーツ活動のニーズに対応すること、予約管理システムなどICTを活用して利便性を向上させることを提案しています。

また、施設のハード面については、「5. 新改築・改修時の留意点」として、主にバリアフリー化やユニバーサルデザイン化、PPP（※官民一体で連携して事業に取り組むこと）／PFI（※公共施設の整備・運営に民間の資金・ノウハウを活用すること）事業の導入といった内容をまとめました。

さらに、実際に開放に取り組む際に参考となる全国各地の好事例を巻末に掲載しています。

このように、学校開放に携わる方々に知っておいてほしい、ソフト・ハード両面の具体的な工夫が、本手引きには収められています。

学校体育施設の有効活用の好事例

ここで、学校体育施設開放の好事例を三つ紹介します。今年度から「学校体育施設の有効活用推



阿智中クラブの活動の様子（女子バレー）

進事業」で、持続可能な仕組みのモデル事例を実証実験を通じて構築しています。まず、この事業に採択されたものの中から二つの事例を紹介します。

一つ目は、長野県阿智村の総合型地域スポーツクラブ「チャレンジうA c h i」の取り組み。このクラブでは、平日夕方17～21時の時間帯で中学校の体育館の管理を受託しています。実は、もともと村内に公共スポーツ施設としての体育館がなかったため、中学校の体育館を建て替える際、一般開放しやすいように配慮して設計されているのです。現在は、クラブが開放の受付業務や村民



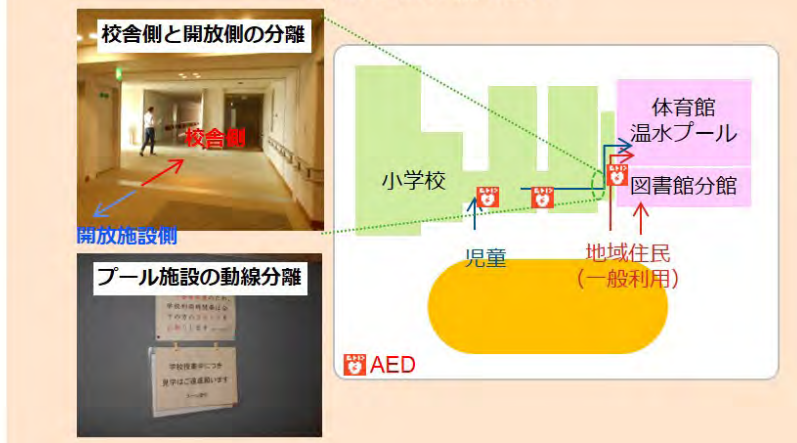
タブレットのスマートチェックインと既存の鍵に設置されたスマートロック

向けのプログラムの提供を行っていて、村民の健康づくりの拠点として有効活用しています。さらに、今年度事業では、部活動終了後の中学生の活動を保障するために「阿智中クラブ」を開始し、野球、サッカー、バレー、卓球など様々なプログラムを提供しています。

二つ目は、沖縄県の民間企業「スポーツデータバンク沖縄」の取り組みです。こちらは、うるま市の学校を対象にして、ICTを利用した仕組みの実証実験をしました。具体的には、自動で施錠できる「スマートロック」を導入し、ウェブ上の予約

参考事例：調布市立調和小学校

調和小学校の動線の工夫



調和小学校の動線の工夫

管理システムをつくることで、学校開放において大きな課題であった鍵と予約の管理という業務を減らすことに成功したのです。これによって、運営側の負担が大きく削減されることになりました。

最後は、民間事業者の資金・ノウハウを活用して公共施設の整備・運営を行うPFI事業を導入した、調布市立調和小学校の事例です。こちらの小学校では、学校の屋内温水プールと体育館などの市民開放施設を併設した複合施設として整備。特に屋内温水プールについては、学校の授業で使用する以外の時間帯は、有料で市民に開放して

まとめ

て、団体利用と個人利用の双方が可能となっています。さらに、整備後の施設の維持管理業務も、引き続き民間事業者に委託して、学校の先生方の負担をなくしています。特に温水プールは、民間事業者の専門知識やノウハウを活用したことで、公共サービスの向上が図られているため、利用者の満足度が高く、年間37,000〜40,000人の利用があるということです。さらに、PFI事業導入により、何と総事業費は削減されたとの報告もありました。

スポーツ庁では、来年度も引き続き「学校体育施設の有効活用推進事業」を実施し、モデル事例の構築を支援していきます。

新型コロナウイルスの影響もあって、運動やスポーツをする大切さが見直されてきている。今、こんないまだからこそ、全国各地にある学校体育施設をうまく活用することで、身近なスポーツの場を提供することがますます重要になります。学校側だけでなく、行政や民間事業者、地域住民が連携して、よりよい地域のスポーツ環境づくりができるよう、この手引きやモデル事例を参考に、取り組んでみてはいかがでしょうか。



スポーツ庁
Web広報マガジン
「DEPARTARE」
はこちらから
<https://sports.go.jp/>

令和3年度「日本博」の採択事業が決定しました

文化庁 参事官(芸術文化担当)付新文化芸術創造活動推進室

この度、令和3年度の「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」の採択事業が決定しましたので、お知らせいたします。

令和3年度の採択事業

「日本博」は、国の関係府省庁、文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者が連携し、日本が誇る様々な文化を四季折々、年間を通じ、多数のプログラムを通じて体系的に発信するプロジェクトです。

この度、令和3年度の「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」の採択事業が決定しました。

《採択件数》

- ◆主催・共催型プロジェクト：44件
- ◆イノベーション型プロジェクト：41件
- ◆文化資源活用推進事業：23件
- ◆国際的文化フェスティバル展開推進事業：2件
- ◆地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業：26件

日本博 令和3年度の展開

令和3年度を日本博の本番年と位置付け、「日本の美」を体現する展覧会・舞台公演・文化芸術祭等を、四季折々、年間を通じて、全国各地で実施します。

各事業の会場では、新型コロナウイルス感染症に万全の対策を講じた上で事業を実施するとともに、国内外の多くの方々がおオンライン上でも日本博を楽しむことができるよう、デジタルコンテンツの発信にも重点的に取り組めます。

日本博では、人と人をつないでいく文化芸術活動に対する支援とともに、日本博全体の情報発信を通じて、国内観光需要及び将来のインバウンド需要回復を目指して取り組んでいきます。

なお、各事業の具体的な開催時期及び場所等については、日本博公式ウェブサイトなどを通じて

順次公表してまいります。

主なラインナップ

令和3年度の採択事業の一部を御紹介します。

※この度の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を受けて、各事業において、個別に臨時休館や、中止・延期等の対応を行う可能性がありますので、各事業の公式サイト等で最新情報の御確認をお願いします。

特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」

＜東京国立博物館＞令和3年4月13日(火)～6月20日(日)
 ※臨時休館中。6月20日(日)まで会期延長予定。



墨のみで擬人化した動物や人々の姿を12-13世紀に描いた、日本絵画史上屈指の名品「鳥獣戯画」を展覧会史上初めて、通期で国宝4巻の全場面を展示。

特別展「京の国宝－守り伝える日本のたから－」

＜京都国立博物館＞令和3年7月24日(土)～9月12日(日)



いにしえより伝えられてきた絵画、書跡典籍および古文書、考古および歴史資料、彫刻、工芸の各分野を代表する京都ゆかりの国宝や皇室の至宝60件余りを中心に、約120件を展示。文化財のもつ不滅の魅力とその意義を紹介する。あわせて文化財を守り伝えてきた様々な取り組みも取り上げる。

特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」

＜東京国立博物館＞令和3年6月22日(火)～9月12日(日)
 ＜奈良国立博物館＞令和4年2月5日(土)～3月27日(日)



国宝
十一面観音菩薩立像(部分)
奈良・聖林寺

三輪山をご神体とする大神神社境内の寺にあった仏像等を紹介。明治元年の神仏分離令によって神社を出てから約150年ぶりに同じ空間に並ぶ。日本の仏像の中で屈指の名宝である聖林寺十一面観音が奈良県を出るのは初めてである。

特別展「聖徳太子と法隆寺」

＜奈良国立博物館＞令和3年4月27日(火)～6月20日(日)
 ＜東京国立博物館＞令和3年7月13日(火)～9月5日(日)



国宝
聖徳太子および侍者像のうち
聖徳太子
平安時代 保安2年(1121)
奈良・法隆寺蔵
奈良展、東京展ともに通期展示

令和3(2021)年は、聖徳太子の1400年遠忌という節目の年にあたる。これを記念して特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催し、誰もが知る聖徳太子の偉業に今一度触れる機会を創出する。本展覧会では、法隆寺の宝物から、太子の姿を偲ぶ肖像や威徳を讃える法会の品々、飛鳥・白鳳期の仏像等を紹介する。太子の人となりや太子への篤い信仰を物語る品々が、1400年の時を超えて一堂に会するまたとない機会である。

我が国の名品を公開、
自然を生かした技を知る

北斎と江戸の文化 特別展「富嶽三十六景への挑戦 北斎と広重」

＜東京都江戸東京博物館＞令和3年4月24日(土)～6月20日(日)



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
葛飾北斎・画 天保2～4年(1831～33)頃
東京都江戸東京博物館蔵

葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景」全点とともに、北斎を乗り越えようとした歌川広重の作品もあわせて展示し、日本人が古くから親しみ、崇めてきた富士山をはじめとする風景画に、二人の絵師がどう挑んだのかを浮き彫りにする。

企画展「イサム・ノグチ 発見の道」 —日本の伝統と自然美に触れるプログラム—

＜東京都美術館＞令和3年4月24日(土)～8月29日(日)



「あかり」
インスタレーション(イメージ)
撮影:齋藤さだむ

20世紀を代表する芸術家イサム・ノグチ(1904-1988)の業績を振り返る展覧会。国内外から作品を集め大型彫刻を中心に約90件を展示する。ノグチの個展としては国内過去最大級の規模である。岐阜の伝統工芸である提灯づくりから想を得た「あかり」シリーズ約150灯が集まる空間を創出し、日本特有の和紙や竹の質感を生かしたやわらかな光が会場を彩るなどのインスタレーションも楽しめる。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ(我が国の名品を公開、自然を生かした技を知る)

主なラインナップ（日本の「衣食住」を通観し、自然と対話する、メディア芸術に描かれる自然に向き合う）

特別展
「ファッション イン ジャパン
1945－2020－流行と社会」

＜島根県立石見美術館＞
令和3年3月20日（土・祝）～5月16日（日）
＜国立新美術館＞
令和3年6月9日（水）～9月6日（月）



第二次世界大戦後から現在までを中心に、日本人の装いの文化を改めて紹介する展覧会。衣服を作り提供する者、着用し消費する者、その両方をつなぐメディア、この三者がからみあいながら展開した創造的ありようを、時代を追いながら社会的背景もふくめて考察。

隈研吾展
新しい公共性をつくるためのネコの5原則

＜東京国立近代美術館＞令和3年6月18日（金）～9月26日（日）



The Exchange
(オーストラリア) 2019
© Martin Mischkulnig

隈研吾は、日本の各時代・地方の文化的特性を巧みに組み合わせながら、その建築をつくりあげている。隈建築を知ることが日本の美意識や文化をより深く知ることに通じるという見地にたち、また日本ではまだ模型や写真が中心である建築展のレガシーとなることを目指し4Kや360度VRやプロジェクション・マッピングなど先進的な映像技術を多用したり、ポストコロナ以降の都市のあるべき姿を提示する展示を行うことを試みた。

日本の「衣食住」を通観し、自然と対話する

工芸ダイニング2021—工芸と食—

＜静岡県熱海市＞令和3年11月21日（日）～25日（木）
＜福岡県福岡市＞令和4年2月5日（土）



重要無形文化財保持者をはじめとする工芸作家の作品を実際に「使って楽しむ」こと、ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食—日本人の伝統的な食文化」を「食べて楽しむ」ことを体現する。

メディアアンビショントウキョウ2021 (MAT2021)

＜六本木ヒルズ（東京都）ほか＞
令和3年5月12日（水）～6月8日（火）



シナスタジアX1 - 2.44 <Hazo> /
シナスタジアラボ feat. evala (See by Your Ears)

メディア芸術に描かれる自然に向き合う

Media Ambition Tokyo (MAT) は、これまで最先端のテクノロジーを実験的に都市に実装するリアルショーケースとして、過去8回開催。日々、進化していくテクノロジーとアート、映像、パフォーマンス、セミナー、ワークショップなどの積層的な展開を図る事により、多様なプログラムを内包するプラットフォームとして成長を続けている。

今年は六本木をメイン会場として最先端のテクノロジー×アートによる展示で、東京を文化で盛り上げる。

札幌国際芸術祭を核に
地域の文化芸術資源を活用した
文化芸術振興及び観光・地域経済活性化事業

＜モエレ沼公園、札幌市民交流プラザほか札幌市内各所＞
令和3年4月～令和4年3月



札幌国際芸術祭を通じた現代アート、メディアアートの普及や、国指定重要文化財「札幌市資料館（旧札幌控訴院）」等を活用した情報発信、SIAFラボによるメディアアートを軸としたプロジェクト、札幌の特徴である雪や北方圏の文化を題材としたアートイベントの開催等を通じ、札幌独自の文化や都市の魅力を国内外に広く発信するとともに、次回芸術祭開催を見据えた人材育成を行う。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ（自然にちなんだ伝統芸能、自然との関わりを描いた現代舞台芸術を観る）

伝統芸能発見！ - Discover 伝統芸能 -

＜国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・国立演芸場・伝統芸能情報館＞
令和3年6月～12月



「Discover KABUKI」イメージ

訪日外国人、在日外国人、日本人の初心者の方々のために解説や多言語対応に配慮した「Discover KABUKI」「Discover NOH & KYOGEN」や「Discover BUNRAKU」に加え、令和3年度は「Discover 日本舞踊」「Discover 邦楽」など、新規に対象分野を広げて提供する。

「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～

＜新国立劇場(東京都)＞令和3年7月24日(土)～27日(火)



「竜宮 りゅうぐう」
第1幕より
(撮影:鹿摩隆司)

日本の御伽草子「浦島太郎」を基とした新作バレエを新国立劇場バレエ団が令和2年7月に世界初演。竜宮城に美しい四季の部屋があることや、玉手箱を開けて老人になった太郎が鶴になり、亀姫とともに夫婦明神となり長寿を願う鶴亀伝説に繋がるなど、よく知られているおとぎ話とは一味違うストーリーが幻想的な海と空を舞台に描かれる。

子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」

＜新国立劇場(東京都)＞令和3年8月21日(土)・22日(日)



オルタ3 (Supported by mixi, inc.)

新国立劇場オペラ芸術監督・大野和士が総合プロデュース、自ら指揮し、様々なジャンルで幅広く活躍する作家・島田雅彦の台本、初音ミクオペラで海外からも注目を集める渋谷慶一郎の作曲により、これまでにない新しいオペラ作品を創出、AI(人工生命搭載アンドロイド「オルタ3」)と少年の友情が自然への回帰の意識を呼び覚まし、新たな未来への扉を開く物語を展開する。

大阪文化芸術フェス事業

＜万博記念公園ほか府内各所＞令和3年10月10日～令和3年11月中旬



大阪が誇る上方歌舞伎をはじめとする多彩で豊かな文化芸術や世界遺産等の文化財の魅力を広く国内外に発信し、インパウンドも含めた多くの観光客を呼び込むことで、国際エンターテインメント都市の実現を目指すとともに、大阪・関西万博につなげていく。

日本人と自然

「春夏秋冬」「草木成仏」「花鳥風月」

＜国立能楽堂＞令和3年4月～6月



能「熊野 村雨留」
観世鏡之丞

国立能楽堂の4～6月の公演は「月間特集 日本人と自然」として、4月「春夏秋冬」、5月「草木成仏」、6月「花鳥風月」、とそれぞれの月にテーマを据え、ゆかりの能・狂言の作品を集中的に上演する。能楽における日本人と自然をテーマとした特別展を同時開催。

寄席「笑楽座」2021

＜宮城県仙台市 ほか＞令和3年5月～令和4年3月



令和3年度は、寺社や東京タワー、博物館などのユニークベニューにおける舞台公演を企画実施するとともに、新たな映像配信技術「ビジュアルエンターテインメント」を用いることで国内外へのWEB配信を行い、コロナ禍の地方公演のやり方を模索・開拓していく。公演と中継技術を融合し、WEB配信用の動画でありながら実演らしさ、ライブ感を醸成する取り組みを目指す。

伝統芸能にみる「日本人と自然」

～伝統芸能の重層性と日本人の美意識と自然観を体感する～

＜国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・国立演芸場・
伝統芸能情報館＞令和3年4月～令和4年3月



「舞踊」「邦楽」「雅楽」「声明」「民俗芸能」といった、国指定重要無形文化財などに指定され伝承されてきた日本の代表的な伝統芸能に若手から人間国宝が出演。解説書付きの公演や、古典と現代のコラボレーションによる新作として古典の伝承のみならず、新たな観客層の新規開拓や、古典芸能をベースに新たな表現の可能性を探る企画など幅広く上演する。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

アース・セレブレーションを核とした佐渡の国際的フェスティバル展開事業

<新潟県佐渡市> 令和3年4月～令和4年3月

島の豊かな自然の中で多様な文化を交錯させ、新しい地球文化を創造しようと毎年開催している「アース・セレブレーション」。

本事業では、国内でも歴史ある国際野外フェスティバルが核となり「さどの島銀河芸術祭」をはじめとする「佐渡固有の文化活用事業」主体者が連携し、全島を舞台にした国際的フェスティバルを展開する。



アース・セレブレーション実行委員会

自然の中で文化を味わう

神々の集う国「出雲」体験フェスタ ～日本博in出雲～

<島根県出雲市> 令和3年4月～令和4年3月



出雲神楽／大土地神楽保存会神楽方

出雲の豊かな自然・歴史・文化を活かし、中世末から近世初期にかけて確立され脈々と受け継がれてきた「出雲神楽」、数々の有形無形の文化財で構成される「日本遺産 日が沈む聖地出雲」、日本最古の歴史書に天日隅宮（あめのひすみのみや）と記された「出雲大社」、「出雲発祥とされる様々な文化（ぜんざい、日本酒など）」を4本柱とした様々なコンテンツを同時に展開し、「出雲の自然・歴史・文化」と「日本の美」を、出雲を訪れた人々にまちあるき・市内周遊を通して体感いただくとともに様々なコンテンツを映像化し、ウェブサイト・SNSを通じて国内外に広く発信していく。

東北の6つの伝統的夏祭りが一体となった「東北絆まつり」による東北の復興、魅力発信プロジェクト ～2020年を契機とした首都圏巡回プロモーション～

<WEB、東京都> 令和3年4月～10月



「祭り」は、縄文の時代から日本人が持つ自然への祈りの精神等を表現したものであり、東北を代表する「青森ねぶた祭」「秋田竿燈まつり」「盛岡さんさ踊り」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」「福島わらじまつり」も、東北の各地域に伝わる伝説や言い伝えをもとに、厄除けや五穀豊穡などの願いを込めて始まったと言われている、人々の生活や想いに根付く伝統的な文化である。

東日本大震災を機に鎮魂と復興を願い六つの祭りが連動・一体化し始まった「東北絆まつり」を活用し、世界から注目を集める復興五輪を契機として、首都圏会場にて巡回パフォーマンスを実施。

被災地復興

東北・新潟の復興と伝統文化の魅力を体験できる「東北ハウス」事業

<アキバ・スクエア（東京都）> 令和3年7月22日（木）～8月7日（土）
<WEB> 令和3年8月24日（火）～令和4年1月24日（月）

「東北ハウス」は、東日本大震災の発生から10年の節目に、「世界から寄せられた支援に対する感謝の気持ち」を伝え、「復興に向けて着実に歩んでいる元気で安心な東北の姿」、「日本の他地域では味わえない観光地「東北・新潟」の魅力」を世界中の皆さんに体験していただく、期間限定の情報発信拠点である。

「感謝」、「交流」、「明日へ」の3つのコンセプトで復興支援への感謝の気持ちと東北・新潟の魅力を世界へ発信する。



東北・新潟の魅力を発信する映像コンテンツ
「The View from TOHOKU & NIIGATA」

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

障害者の文化芸術創造拠点 形成プロジェクト

＜国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
(大阪府) ほか＞ 通年

国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)の完全バリアフリーの環境と誰もが文化芸術活動を楽しめるノウハウ、障害者の国際交流ネットワークを最大限に活用し、誰もが文化芸術を楽しめる環境の創出と開発整備の推進をプロジェクトを通じて実現する。日本・アジアで活躍する振付家、プロのダンサーと障害のあるダンサーが協働し、わが国の自然や伝統文化等をベースにした魅力ある大型ダンスプロジェクトを実施することによって誘客力のある障害者の国際文化芸術拠点形成と共生社会の実現へとつなげる。



DANCE DRAMA
プロモーション写真
撮影 富田了平

共生社会・多文化共生と自然

日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル

＜東北ブロック:岩手県、関東・甲信ブロック:埼玉県、近畿ブロック:滋賀県>
令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)



石見神楽(いわみ福祉会芸術クラブ)

障害者の芸術表現、そして障害者がそれぞれの特性とともに生きる様には、今なお天然の色彩、音の風情を慈しむ心が強くにじみ出ている。これらの日本独自の精神文化として障害者の視点で「日本人の美」を国内外に発信する全国規模のプロジェクト。2020年2月に実施したグランドオープニングを皮切りに、全国7箇所で開催された展示会・舞台芸術等の様々な分野を発信するフェスティバルでは障害当事者団体や福祉の職能団体等からなる全国50万人と地方自治体等と連携を図りつつ、独自の文化を持つ地方からその魅力を発信する。

日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」

＜札幌文化芸術劇場 hitaru(北海道)> 令和3年9月18日(土)



アイヌ伝統舞踊(鶴の舞)

イランカラブテ!

アイヌ文化フェスティバルでは、全国からアイヌの伝承者が参集し、アイヌの伝統楽器であるムックリの演奏やアイヌの伝統舞踊を披露する。また、音楽公演として、アイヌのミュージシャンがアイヌの伝統を踏まえつつ現代音楽を取り入れて作った斬新なサウンドでアイヌ音楽の魅力を発信する。さらに、ミュージカル公演でアイヌと和人が共生できる道を探った松浦武四郎とアイヌの交わりを伝える。ステージ公演終了後、ダイジェスト版をインターネットにより配信することにより、より多くの方にアイヌ文化に触れていただく機会を提供する。

主なラインナップ(共生社会・多文化共生と自然)

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(主催・共催型プロジェクト)採択一覧

No.	組織・団体名	プロジェクト名
1	公益財団法人アイヌ民族文化財団	日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」
2	全国近代化遺産活用連絡協議会	日本の近代化遺産 ～自然の力と美を引き出す技～
3	株式会社日本国際放送(環境省および独立行政法人国立科学博物館との共同事業)	企画展「国立公園 –その自然には、物語がある–」連携事業
4	白老文化観光推進実行委員会	(仮称)白老文化芸術交流
5	三陸国際芸術推進委員会	三陸国際芸術祭「縦」(仮称)
6	ビッグ・アイ共働機構 (国際障害者交流センター)	障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト
7	公益社団法人能楽協会	「東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭」及び「能楽を旅する」デジタルコンテンツ企画(仮称)
8	公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会	日本遺産を活かした伝統芸能ライブ「NOBODY KNOWS」プロジェクト
9	株式会社 朝日新聞社	「本城直季 (un)real utopia」 東京会場開催と日本の自然・被災地の現状を伝える関連プロジェクト
10	日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルに向けた全国会議	日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル
11	公益社団法人 落語芸術協会	寄席「笑楽座」2021
12	株式会社エヌケービー	「日本博 × CLUB RED」
13	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」
14	独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)	伝統芸能にみる「日本人と自然」 —伝統芸能の重層性と日本人の美意識と自然観を体感する—
15	独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)	伝統芸能発見! —Discover 伝統芸能—
16	認定NPO法人趣都金澤	GO FOR KOGEI - こころと技術の時代のアートプロジェクト (仮称)
17	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	北斎と江戸の文化
18	独立行政法人日本芸術文化振興会	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感!日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界」
19	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館	隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則
20	独立行政法人国立美術館 国立新美術館	アニメ・特撮文化と日本の自然観(仮称)
21	株式会社パシフィックボイス	ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2021
22	独立行政法人国立科学博物館	企画展「日本の生物多様性の解明と保全」(仮称)
23	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	特別展「縄文2021 —東京に生きた縄文人—」
24	公益財団法人 新国立劇場運営財団	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」
25	株式会社 朝日新聞社	企画展「イサム・ノグチ 発見の道—日本の伝統と自然美に触れるプログラム—
26	株式会社NHKプロモーション	日本の技EXPO～文化財を守る自然の素材と匠の技術～
27	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	春夏秋冬(フォーシーズンズ)(仮称)
28	一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構	令和3年度文産官プラットフォームによるファッション文化創造プロジェクト (連携:経済産業省)
29	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	親子のギャラリー「まるごと体験!日本の文化 リターンズ」
30	公益社団法人 大日本弓馬会	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 安全祈願奉納流鏑馬
31	一般社団法人 アート東京	自然に影響を受けた日本人の美with Art Fair Tokyo 2022
32	株式会社 朝日新聞社	「GENKYO 横尾忠則」展の関連プロジェクト「横尾忠則と滝シリーズ、With Corona体験展示」
33	株式会社読売新聞東京本社	「観客村」連携特別展示 陶板芸術「風神雷神図屏風」で魅せる日本の美
34	株式会社 朝日新聞社	寿ぎのきもの ジャパニーズ・ウェディング展 —日本の婚礼衣装と伝統的婚礼文化からみる日本人の自然感—
35	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団	「工藝ダイニング2021—工芸と食—」
36	宗像国際環境会議実行委員会	「神宿る島」国際文化芸術プロジェクト
37	国際芸術祭BIWAKOピエンナーレ実行委員会	国際芸術祭BIWAKOピエンナーレ2022に向けて
38	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館	特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」
39	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」
40	奈良県	古代から令和の時代までつながる文化を巡る奈良博覧プロジェクトⅢ 世界遺産を巡る奈良博覧プロジェクト + 発掘現場・修理現場の公開
41	出雲市	神々の集う国「出雲」体験フェスタ ～日本博in 出雲～
42	せとうちパレット日本博実行委員会	「響きあう、人・海・芸術～せとうち交響」プロジェクト
43	独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館	特別展「海幸山幸」関連特別公開
44	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	琉球王朝の美～沖縄伝統芸能、その継承と発信～

※令和3年4月28日時点

採択事業一覧

令和3年度の採択事業の一覧を掲載します。

令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(イノベーション型プロジェクト)採択一覧

No.	組織・団体名	プロジェクト名
1	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	東京2020 NIPPONフェスティバル 「しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ」
2	世界遺産リレー催事実行委員会	世界遺産リレー催事による日本文化発信プロジェクト
3	幸せ出ずる国いわて実行委員会	ファンタスティックいわてー復興フェスティバル
4	一般社団法人日本花火推進協会	みんなの花火～誰もがつながり楽しめる花火～
5	2020東京オリンピック・パラリンピック 福島大会前夜祭実行委員会	2020東京オリンピック・パラリンピック福島大会前日祭(仮称)
6	一般社団法人 アート東京	“夢の時間” 伝統芸能とのコラボレーションによる教育・地域文化への貢献プロジェクト
7	まちづくり鹿嶋株式会社	エキサイト'21
8	田んぼアートまちづくり体験事業推進協議会	田んぼアートプロジェクト(仮称)
9	株式会社W TOKYO	「バーチャルTGC×文化財」最先端テクノロジーを活用した新しい魅力発信
10	公益財団法人竹中大工道具館	国立科学博物館・竹中大工道具館共同企画展 「木組、分解してみましたー 自然から学んだ匠の心(仮称)」
11	東映株式会社 (観世文庫・観世能楽堂との共同企画)	神・鬼・麗 三大能∞2020
12	株式会社日本経済新聞社	THE HEROES 刀剣×浮世絵-武者たちの物語
13	公益社団法人 日本将棋連盟	国際将棋フェスティバル2021
14	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	東京2020 NIPPONフェスティバル ONE -Our New Episode-
15	凸版印刷株式会社	生誕260年記念企画 特別展「北斎づくし」イマーシブシアター
16	東北絆まつり実行委員会	東北の6つの伝統的夏祭りが一体となった「東北絆まつり」による東北の復興、 魅力発信プロジェクト～2020年を契機とした首都圏巡回プロモーション～
17	東北・新潟の情報発信拠点事業「東北ハウス」 実行委員会	東北・新潟の復興と伝統文化の魅力を体験できる「東北ハウス」事業
18	一般社団法人メディアアンビショントウキョウ	メディアアンビショントウキョウ2021(MAT2021)
19	一般社団法人東京ビエンナーレ	東京ビエンナーレ2020/2021
20	公益財団法人角川文化振興財団	日本とパチカン文化交流プロジェクト-長崎の自然と文化体験コンテンツの創成
21	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館	ないじえる芸術共創ラボ 古N典ボラリーアート! IN NIPPON PARTII
22	国立大学法人 東京芸術大学	東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト2021
23	公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団	落合陽一×日本フィルハーモニー交響楽団プロジェクト VOL.5
24	「神宿る島」 宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	自然への信仰と日本文化の形成を訪ねて ～「神宿る島」沖ノ島を中心とした広域連携企画～
25	株式会社NHKプロモーション	ファーマーズ&キッズフェスタ2021×浮世絵～浮世絵が語る日本の「食文化」と「自然」～ (仮称)
26	株式会社 月虹舎	日本の色のルーツについて、染織史と古代染織技法を研究・新たな作品制作・ 古代染織研究成果の映像作品化をし、伝統染織技法を次世代へ継承するプロジェクト(仮称)
27	神奈川県	ともに生きる社会かながわ「カガヤク ミライ ガミエル/カナガワ2021」
28	万葉大茶会実行委員会2021	令和の万葉大茶会2021高岡大会
29	株式会社オディブランニング	富士山をはじめ富士吉田の文化資源を活かした芸術による情報発信事業
30	株式会社GO AHEAD	北斎花火&歌舞伎花火 日本の伝統文化を世界にPRする山梨県市川三郷町との連携プロジェクト
31	株式会社 山本寛齋事務所	日本元氣プロジェクト2021 世界遺産ランウェイ in 富士山(仮称)
32	エイベックス・エンタテインメント株式会社	NINJA PROJECT
33	大塚オーミ陶業株式会社	やきもので繋ぐJOMON×未来 ー多彩な表現展2021ー(仮)
34	宗教法人 延暦寺	伝教大師1200年大遠忌 最澄と比叡山
35	一般社団法人KYOTOGRAPHIE	KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2021
36	京都市	“共創”文化が繋ぐ伝統産業プロジェクト(仮称)
37	京都市	「KYOTO EXPERIMENTミーティングポイント」プロジェクト ～京都の文化資源を活かした交流の広場
38	関西コレクション実行委員会	KANSAI COLLECTION 2021 AUTUMN&WINTER
39	株式会社アートローグ	国際芸術祭(仮称)
40	株式会社読売広告社	「熊本城下町復興周遊プロジェクト」
41	株式会社よしもとエンタテインメント沖縄	やんばるアートフェスティバル2021-2022

※令和3年4月28日時点

令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(文化資源活用推進事業)採択一覧

No.	都道府県名	市町村名	事業名
1	北海道	札幌市	パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌(PMF)開催事業
2		札幌市	札幌国際芸術祭を核に地域の文化芸術資源を活用した文化芸術振興及び観光・地域経済活性化事業
3	群馬県	群馬県	群馬県戦略的文化芸術創造事業
4	千葉県	市原市	「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス」を核としたアートによるまちづくり
5	神奈川県	横浜市	創造的イルミネーション事業
6		横須賀市	「文化財×自然×文化芸術」推進事業日本遺産等を活用した旧軍港都市・横須賀東海岸
7		伊勢原市	霊峰大山で出会う日本の伝統・江戸の粋
8	新潟県	新潟県	新潟発!縄文からつづく文化の魅力体験・発信事業
9	富山県	富山県	利賀から世界へ・世界から利賀へ ～世界的舞台芸術拠点形成事業
10	石川県	石川県	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催事業
11	長野県	大町市	「北アルプス国際芸術祭」を核としたアートによる持続可能なまちづくり
12	愛知県	名古屋市	名古屋 台地の縁(ヘリ)とHeritageをつなぐ1万年アートプロジェクト
13	京都府	京都府	京都府域展開アートプロジェクト「もうひとつの京都」
14		京都市	京都の美・日本の美・百花爛漫 ～日本の博覧会150年紀～
15		京都市	京都の文化・観光資源を活用したメディア芸術・コンテンツ産業振興事業
16		京都市	シルクロードいま昔
17	大阪府	大阪府	「大阪文化芸術フェス」事業
18		堺市	ものの始まりなんでも堺・文化芸術創造都市プロジェクト
19	島根県	松江市	日本の美 城下町文化 と 日本の面影 体感プロジェクト
20	山口県	山口市	山口ゆめ回廊博覧会を契機とした「アートで奏でる大内文化」交流創造・発信事業
21	徳島県	徳島県	アニメの聖地とくしま!ニューノーマル対応「マチ★アソビ」による地域活性化事業
22	福岡県	北九州市	東アジア文化都市北九州2020 ▶21推進事業
23	大分県	大分県	創造県おおい国際発信事業

※令和3年4月28日時点

令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
「国際的文化フェスティバル展開推進事業(長期開催型)」採択一覧

No.	組織・団体名	事業名
1	十日町市	「大地の芸術祭の里」ブランディング強化による国際的価値創造事業
2	アース・セレブレーション 実行委員会	アース・セレブレーションを核とした佐渡の国際的フェスティバル展開事業

※令和3年4月28日時点

**令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
(地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業) 採択一覧**

No.	都道府県名	市町村名	事業名
1	岩手県	花巻市	東北地方の災害ゆかりの文化資産を活用した企画展「ブドリのイーハトーブ災害ノオト」展覧会事業
2	山形県	山形市	プライム企画展「紅と藍 -くらしを彩る-」 Golden Red from Safflower and Japan Blue from Indigo plant
3	茨城県	土浦市	土浦市立博物館第43回特別展「八田知家と名門常陸小田氏」
4		水戸市	茨城ゆかりの文化資産を活用した「華麗なる明治 -宮廷文化のエッセンス-」展覧会事業 (令和3年度特別展)
5		筑西市	筑西市ゆかりの文化資産を活用した「板谷波山」展覧会事業
6	栃木県	益子町	「バーナード・リーチ -100年の奇跡-」展覧会開催事業
7		足利市	足利市制100周年記念展 足利ゆかりの名宝展
8	群馬県	高崎市	「新・すばらしき群馬のはにわ」展覧会開催事業
9	神奈川県	横浜市	神奈川県立歴史博物館特別展「開基500年記念 早雲寺-戦国大名北条氏の遺産と系譜-」
10		小田原市	春日神霊の旅展覧会事業
11	新潟県	十日町市	新館オープン1周年記念・夏季特別展「形をうつす-文化財資料の新たな活用-」開催事業
12	石川県	小松市	石川県ゆかりの文化資産を活用した 日本遺産関連特別展「未来への遺産 九谷が京焼に接すると・・・」(仮称) 展覧会事業
13		金沢市	企画展「加賀百万石 文武の誉れ-歴史と継承-」
14	福井県	越前町	福井県陶芸館 開館50周年記念特別展「ECHIZEN BRAND」
15	長野県	飯田市	特別展「菱田春草-没後110年・故郷につどう珠玉の名画-」開催事業
16	岐阜県	岐阜市	特別展「波濤を越えて-鑑真和上と美濃の僧・栄叡-」
17	静岡県	浜松市	浜松ゆかりの文化資産を活用した「遠州の民藝」展覧会事業
18	愛知県	瀬戸市	中国陶磁史の概観と唐物への憧れに始まる日本陶磁の展開プロジェクト(仮称)
19		名古屋市	名古屋ゆかりの文化資産を活用した特別展「大雅と蕪村」開催事業
20	三重県	桑名市	桑名市博物館創設50年・本多忠勝桑名入封420年特別企画展「本多忠勝と桑名」(仮)
21	京都府	京都市	丹後地域ゆかりの文化資産を活用した 「玉の輿」大名家の栄光と苦悩-徳川綱吉・桂昌院と宮津藩本庄松平家」展覧会事業
22		亀岡市	丹波地域ゆかりの歴史文化資源を世界に発信事業 -丹波亀山城と円山応挙を題材としたデジタル展覧会-
23	大阪府	大阪市	大阪を中心とする関西地域ゆかりの文化資産を活用した「聖徳太子」展覧会事業
24	大分県	大分市	生誕110年記念 糸園和三郎展 ~魂の祈り、沈黙のメッセージ~
25	宮崎県	都城市	開館40周年記念特別展「雪舟から都城(仮)」
26		都城市	都城島津伝承館特別展「都城県置県150年記念 都城県誕生~近代都城の出発~」

※令和3年4月28日時点



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY/JAPAN

文部科学省「情報ひろば」

NAVI

Navigation

皆さん！
「情報ひろば」を
知っていますか？

「文部科学省 情報ひろば」新庁舎2階エントランスにおいて 新たな企画展示を開始しました！

「文部科学省 情報ひろば」新庁舎2階エントランスでは、文部科学行政に関する様々な展示と情報発信を行っています。
令和3年5月14日から、新たに以下の大学・研究機関等による企画展示を開始しました。
文部科学省への来省の際は是非お立ち寄りください！

展示機関 奈良先端科学技術大学院大学

開催期間 令和3年5月14日～令和3年6月22日

開催場所 情報ひろば「新庁舎2階エントランス」

「機能性アミノ酸」高生産酵母の研究と商品化 —お酒の風味向上と肝機能サポートを実現！

令和3年10月1日に創立30周年を迎える奈良先端科学技術大学院大学では、最先端の研究成果を社会に還元することを使命として産官学連携（共同研究、受託研究、技術移転等）の積極的な推進に取り組んでいます。

本企画展示では、本学先端科学技術研究科バイオサイエンス領域ストレス微生物科学研究室の高木博史教授による、研究成果が地域に根ざした機関や企業等と連携し、奈良県をはじめとした酒造会社から商品化された事例等を紹介し、特に、本学が立地する奈良県は清酒発祥の地とも言い伝えられており、古の時代から受け継がれてきた清酒づくりと、本学の最先端の研究成果が融合することで、地域の発展に研究成果で貢献している好事例を実物やパネル、映像などで紹介します。

パネル ・「機能性アミノ酸」高生産酵母の研究と商品化
—お酒の風味向上と肝機能サポートを実現！—

- 実物展示 [清酒]
- ・八木酒造株式会社「純米酒升平 オルニチン高生産性酵母使用 純米酒」
 - ・菊司醸造株式会社「往馬 オルニチン高生産性酵母使用 純米酒」
 - ・倉本酒造株式会社「純米酒金嶽 オルニチン高生産性酵母使用 純米酒」
- [泡盛]
- ・新里酒造株式会社「HYPER YEAST（ハイパーイースト）101」
 - ・神谷酒造所「はなはな ハイビスカス酵母仕込み」
 - ・有限会社神村酒造「尚（しょう）KAMIMURA」
- [クラフトビール]
- ・Golden Rabbit Beer「奈良クラフト（仮）」

- 映像
- ・高木博史教授による企画展示紹介（酵母育種シーン等）
 - ・塩崎一裕 新学長就任メッセージ
「学長ビジョン2030—先端科学技術で未来を共創する大学—」
 - ・奈良先端科学技術大学院大学ショートムービー
 - ・奈良先端科学技術大学院大学施設紹介動画

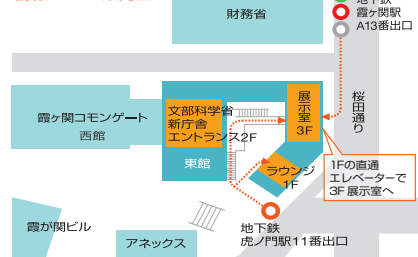


情報ひろば INFORMATION

所在地：〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
交通案内：銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結／千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分
開館時間：月曜～金曜10時～18時
※入館は閉館の30分前まで ※土曜日、日曜日、祝日、年末・年始休館
入館料：無料

お問合せ・団体見学申込先 文部科学省大臣官房総務課広報室事業第2係
TEL：03-6734-2170 Email：hiroba@mext.go.jp

情報ひろば 案内図



※「情報ひろば」3階展示室は、令和3年5月現在臨時休館しております。最新情報は、「情報ひろば」のホームページを御覧ください。

⇒ <https://www.mext.go.jp/joho-hiroba/>

皆様のお越しをお待ちしています。是非、お気軽にお立ち寄りください。

文部科学広報



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学広報 令和3年5月号 No.258

(発行・著作)

文部科学省大臣官房総務課広報室

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL : 03-5253-4111 (代表)

URL : <https://www.mext.go.jp/>

E-mail : mextjnal@mext.go.jp